

2016年12月19日

バイオエンブラ「DURABIO®(デュラビオ®)」が
「マツダ ロードスター RF」の外装意匠部品に採用

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社（本社：東京都千代田区、社長：石塚博昭、以下「当社」）のバイオエンジニアリングプラスチック「DURABIO®」が、マツダ株式会社（本社：広島県安芸郡、社長：小飼雅道、以下「マツダ」）から本年12月22日に発売される「ロードスターRF」の外装意匠部品に採用されました。

DURABIO®は、再生可能な植物由来原料であるイソソルバイドを使用したバイオエンブラで、耐衝撃性・耐熱性・耐候性などの点で、従来の一般的なエンブラに勝る、優れた性能を有しています。また、発色性が良く、顔料を配合するだけで、従来塗装品を超える「鏡面のような平滑感・深みのある色合い」を表現することが可能です。更に、表面が硬く、擦り傷が付きにくいという特長もあるため、塗装工程が不要となり、製造時にVOC（揮発性有機化合物）を低減することができます。

当社とマツダは、外装意匠部品に無塗装で使用可能な DURABIO®の新グレードを共同で開発し、同グレードが2015年にマツダから発売された「ロードスター」に採用されて以降、「CX-9」、「アクセラ」、「デミオ」の内装意匠部品に順次採用され、今回の「ロードスターRF」で五車種目となります。今後も、更に採用車種が拡大される予定です。

当社は、今回の採用を機に、自動車内装意匠部品はもちろん、外装意匠部品への採用拡大に向けて、DURABIO®の研究開発を加速させ、環境にやさしいクルマづくりに貢献してまいります。

以上



採用例：ロードスターRF(左)とアクセラ(右)

<画像提供：マツダ>

本件に関するお問合せ先
(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR 室
電話：03-6748-7140